

目指す学校像		重点項目 (学校組織目標)		重点目標		達成状況	
<p>◆就労を目指し、自己実現のできる学校【生徒】 ◆挑戦し続け、成長の喜びと感動のある学校【生徒・職員・保護者】 ◆地域や企業と共に、よりよい社会創りに貢献できる学校【地域・企業等】 &lt;R3 スローガン&gt; 『 Be ambitious! (大志を抱け) 』 KOUTOKUスタンダード 『 Keep on Smiling 』 &amp; 『 Be a role Model 』 &amp; 『 Only one in Japan 』 (笑顔でいこう) (お手本になろう) (日本でただひとつ)</p>							
昨年度の成果と課題		重点項目 (学校組織目標)		重点目標		達成状況	
<p>・学校三師と連携し、本校版学校再開ガイドラインの策定をした。ガイドラインに基づいた感染防止対策を実施した。今後も継続的に実施していくことが必要である。 ・生徒の実態を多面的にとらえ、日々観察しながら生徒の悩みの早期発見や適切な支援に努めるとともに、外部との連携が必要な生徒は、支援体制を整え、関係者と連携し支援をしていく必要がある。 ・働き方の改善を各自が意識し、残業時間も平均では減ってきているが、個人差があり更なる働き方の改善が必要である。</p>		安心・安全・元気で活力ある学校づくりの推進を図る。【安心・安全・元気】		①安心して学習や生活ができる教育環境の整備 ②一人一人に応じた生徒指導と健康管理 ③教職員の働き方改革の推進とチーム力向上			
<p>・専門教科の指導にICTを導入しデータ管理等の活用を進めることができた。さらに社会情勢に沿った内容でICT教育の推進を図る必要がある。 ・主体的・対話的で深い学び等新学習指導要領を踏まえた授業づくりを推進してきたが、さらに新学習指導要領で求められる教育内容、方法を研究する必要がある。 ・寄宿舎において「生活スキル検定」に全員が取り組み、自己管理能力の育成を図ることができた。さらに今後は、自治会活動や委員会活動等主体的に取り組める活動を増やしていくことが必要である。</p>		将来の社会生活・職業生活を見据えた体系的な教育の推進を図る。【自立】		④卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントの推進 ⑤新学習指導要領を踏まえた授業づくりの推進 ⑥寄宿舎における自己管理能力の向上			
<p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事で密集を避け、各学年集団ごとに実施した。今後も生徒が主体的に活動できる場を設定する工夫を、継続していくことが必要である。 ・学校紹介動画を作成・発信することができた。また、学校説明会や見学会、教育相談等、これまで集団で行っていたものを個別に対応して実施し、本校の理解啓発を積極的に進めてきた。今後も継続して志願者数確保に向けた取り組みが必要である。 ・企業との連携により98%の就労率を達成することができた。今後も生徒一人一人の職業的自己実現に向け、組織的・系統的な就労指導に取り組むことが必要である。</p>		社会に開かれた魅力ある教育の推進と本校教育の理解啓発を図る。【挑戦】		⑦生徒主体の持続可能な学校行事への取組 ⑧本校教育の理解啓発と本校志願者数の向上 ⑨企業との連携強化による進路指導の充実			
<p>・光陽祭において3つの社会貢献活動（エコキャップ、土のう袋、募金）を生徒実行委員が主体的に計画し実施した。また、貢献活動を広義に捉え、家庭での取り組みも推進した。今後も継続して取り組み、地域や社会に貢献する気持ちを育て、人材育成を図る必要がある。 ・キャリアパスポートについて、全学年で計画的に活用できている。今後もキャリアパスポートの活用について、見直し、改善を図りながら職業的自己実現に向けた支援を継続する必要がある。</p>		豊かな人間性を育て、よりよい社会の創り手を育てる教育の推進を図る。【貢献】		⑩相手を思いやる豊かな心の育成 ⑪キャリア形成の促進 ⑫ボランティア活動、スポーツ・文化芸術活動の推進			
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	課題及び次年度への改善策	
総務部門	グラウンドデザインの実現に向け、各部門、学年と連携を図りながら、効率的な学校運営に努める。	経営企画会での検討と実施、部門間、学年間との連携、早期立案のための業務進行管理及び改善シートを活用した見直し改善をする。		①～⑫			
教務部	基本研修や現職研修、衛生委員会による研修等を活用し、チーム力の向上を図るとともに、コンプライアンスの推進に努める。	授業研を活用した授業力の向上、人権研修や出張報告会、若手教員によるコンプライアンス及びチーム力向上のボトムアップ研修、衛生委員会によるチームビルディング研修を実施する。		③			
	卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントに努める。	専門教科における3つの視点（基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価）の実践及び検証をすすめ、専門教科評価表を使った面談形式での振り返りを実施する。		④⑤			
	受検者数の確保に向け、学校の情報発信の充実に努める。	本校の魅力伝えるためのリーフレットの配付や学校紹介イメージビデオをホームページに掲載するとともに、必要に応じ訪問して学校説明をする等情報発信について工夫する。		⑧			
総合支援部	生徒一人一人の実態を把握し、学年や関係機関と連携を図りながら、校内支援の推進に努める。	トキキングタイム、あおぞらトキキングを計画的に実施し生徒理解に努める。校内支援会議、関係機関との支援会議、学校医との支援会議等を実施する。標準検査を実施し、生徒の実態を客観的に把握して支援計画に生かしていけるように情報共有をする。		②			
	特別支援教育のセンター的機能の促進と充実に努める。	学校見学や情報の発信を行いながら本校への理解を深めてもらう。高等学校を中心とした巡回相談の充実とニーズに応じた支援への対応に努める。		⑧			
	特別支援教育に対する理解啓発に努める。	事前に担当者との打ち合わせを実施し、活動内容・方法について十分に共通理解を図る。ホームページを利用して活動の情報発信に努める。		⑩			
	心のバリアフリーにつながる交流及び共同学習を工夫する。	校外でのマルシェや地域の方々との交流の充実を図る。ホームページを利用して活動の情報発信に努める。		⑫			
危機管理部	防災教育の推進に努める。地域・関係機関と連携し、より安全で実情に沿った防災訓練のあり方を検討する。	地域と連携した避難所開設運営訓練及び防災連絡会議を実施する。コロナ過であることを意識した防災訓練を実施し、必要に応じて、防災マニュアル及び防災対策組織の見直しをする。		①②			
	防災管理の徹底及び組織活動の充実に努める。	防災倉庫内の整理整頓及び備蓄品の点検（消費期限等）、入れ替えをする。毎月安全点検を実施する。危機管理マニュアルのシミュレーションを実施する。		①			
情報メディア部	ICT環境の整備を行い、校務や授業で円滑に活用できるようにする。	校務の情報化（オンライン会議、ペーパーレス）や授業でのICT活用を推進するための校内環境の整備（機器導入、管理、システム化等）を実施する。		①③			
	ホームページの充実（内容や見やすさ）を図る。	トップページのお知らせやブログによる最新情報の発信、各分掌部の協力による情報提供を実施する。情報にアクセスしやすいページ作りを行う。		⑧			
	教職員、生徒のICT活用向上を図り、学校生活や家庭生活の中で活用できるようにする。	教員が授業や校務、休校時等にICTを活用できるようにするための校内研修を実施する。		④⑤			
		生徒が実態に応じて、情報関係各種検定を取得することができるよう支援する。就学奨励費によるICT機器購入を推進し、授業で活用できる体制づくりを行う。		④			
教育指導部門 学習・研究部	新学習指導要領を踏まえた授業づくりを推進する。	学校課題研究及び計画訪問等と関連させて授業を実施する。専門家による教職員向けの研修会（情報交換を含む）を開催する。ルーブリック評価を用いて目標と評価の一体化を図る。学びの連続性を意識した年間指導計画の見直し、改善を図る。		①②⑤			
	専門教科について、3つの視点（基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価）に基づいた指導の実践・検証をする。	決まりを守り、安全に作業に取り組むための工程を明確化する。作業環境の整備・作業内容の見直し及び基礎的なコミュニケーションの場面設定による習慣化を図る。社会情勢に沿った学習内容および作業内容の検討・実施をする。（生徒によるデータ管理）生徒との対話を重視し、具体的な目標づくりや自己理解を深めるための振り返りを実施する。主体性を育むための役割分担および場面設定をする。生徒主体の発案による社会貢献活動の計画・実施をする。		①④⑤⑦⑩⑪			
	ICT（WEB）を活用した生徒主体による授業実践の推進を図る。	ICTの機器の活用についての情報共有を図る。（職員向けICT研修の実施、ICTを推進するための機器の校内環境の整備）年間指導計画の教材教具へのICT機器の位置づけを明確化する。		①②⑤			
	働き続けるための体力の向上及び地域社会との連携による部活動の充実を図る。	日々の充実した部活動の実施に向けた活動の検討や見直し、新型コロナウイルス感染症対策を含めた顧問会議を実施する。		①②⑫			
就労指導部	将来的な職業的自己実現に向け、本人が主体的に自分自身の進路を自己選択、自己決定していくための企業との連携強化による進路指導及び支援の充実を図る。	本人の適性を踏まえた進路先や業務内容の選択及び決定に向けた現場実習評価表の活用方法を工夫する。		⑨			
		生徒の希望や特性に基づいた就労先及び現場実習先の選定、訪問やWEBを活用した事業所の新規開拓に努める。		⑨			

		「進路の手引き（本校作成物）」を活用した就労（障害者雇用や職業生活等）に関する情報提供及びキャリアパスポートを活用した生徒一人一人のキャリア形成支援の充実を図る。	⑨⑩		
		社会情勢や企業の視点に立った職業教育の充実を図る。	⑨		
	関係機関との連携を図り、卒業生支援の充実を図る。	関係機関（生活支援センター等）との情報共有を図り、卒業生の状況把握及び職場への定着を促進する。	⑨⑩		
		卒業生の継続的就労を支援するための就労先との更なる連携強化を図る。 （必要に応じた移行支援会議、卒業生支援会議の実施）	⑨⑩		
保健指導部	学校医等との連携を図り、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。	学校医等と連携を密にし、感染症予防対策の確認・徹底に努める。	①		
		毎日の健康観察を強化し、個に応じた保健教育を実施する。	①②		
		給食の配膳（衛生面）及び摂食時の指導を徹底し、感染予防に努める。	①②		
		定期的な校内の消毒を実施し、感染予防に努める。	①		
	学校安全の充実に努める。	校内救急体制のシミュレーションを実施し、教員の危機管理意識の向上に努める。	①		
		感染症対策や衛生管理を徹底し、安心・安全な給食の提供に努める。	①		
		掃除用具の管理や生徒・職員による清掃、教室の温湿度管理等を行い、学校安全の充実に努める。	①		
	生徒の実態を把握し、生徒に応じた主体的健康管理能力の向上に努める。	学校ホームページを活用し、健康に関する情報発信を行い、健康意識の向上に努める。	②⑧		
		「食に関する調査」を行い結果を分析し、個に応じた食育指導を工夫する。	②		
		自己の健康目標の設定、自己評価を実施し、主体的健康管理能力の向上を図る。	②		
生徒指導部	予防的な生徒指導実践のための、早期段階での情報収集及び生徒自身による気持ちの自己コントロール意識の育成を図る。	ミーティングによる早期段階での情報収集をする。	②		
		生徒自身による気持ちの自己コントロール意識の育成をねらいとしたハートバランスシートを活用する。	②		
		学校生活のきまりの見直しをすすめる。 インターネット（SNS）に関する指導の充実を図る。	②		
	安全やマナーについて生徒自身が考え、実践することを目指す通学指導を実施する。	公共の場所（電車・駅等）での安全・マナーの向上を目指した登下校指を実施する。 天候に対応した登下校指導を実施する。 交通安全指導を実施する。	①②		
渉外部門 PTA部	保護者との連携を密にし、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた計画的な委員会の開催とスムーズな調整・運用を図る。	本部役員、学年委員、常設委員同士との連絡を定期的にとり、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた各委員会の開催の調整と協議内容の確認をし、共通理解を図る。	①⑧⑩		
		会議での意見、情報交換を生かした議事決定と、様々な事務手続きの簡潔化を図ることでスムーズな運営を目指す。	①⑦⑧		
	新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえたPTA事業内容の工夫と保護者参加率の向上に努める。	ニーズ及び新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえたPTA事業内容の工夫（安全を考慮した）と参加率向上を目指す。	①②③		
	茨特P連や茨知P連、全知P連や関知P連等研修会への参加と報告及び情報交換を図る（リモートを含む）。	PTA行事のホームページ掲載や広報誌等による積極的な情報発信をすすめる。 PTA諸団体行事や研修会等への計画的な参加と報告及び情報交換を実施する。 主催者からの連絡事項のスムーズな伝達・調整（リモートを含む）を図る。	⑧ ①⑨⑩		
諸団体部	外部団体主催の行事への参加をとおして本校の教育活動の理解啓発を図る。	ナイスハート、高等学校文化連盟、特体連スポーツ大会、特教研等では主催者の意向を踏まえ新しい方法の参加方法を検討する。	⑤⑧		
舎務部門	学校や家庭と連携し、情報の共有を図りながら、実態や課題に即した指導を行う。生徒の心に寄り添うとともに、課題解決のために、自ら考え主体的に行動できる力を身に付けられる支援を継続して行う。	個別の指導計画（自己管理能力評価票）を作成し、学校・家庭と連携した指導・支援をする。 課題や目標を生徒と指導員で共有できるサポートレシピを活用し、課題解決のための支援を日常的に行っていく。 生徒の心の動きや変化等を把握するため、トーキングタイムやおしゃべりタイムを適宜実施する。	②⑥		
		生活スキル検定やマイタイムをとおり、生活技術力の獲得や定着等、主体的自己管理能力の育成を図る。	寄宿舎生全員に対し、生活スキル検定を計画的に実施するとともに、マイタイムやマイスタイルを活用することで主体的に生活する習慣を身に付ける。	②⑥	
	自治会活動をとおり、生徒の共同・協働活動の充実を図る。	生徒が自発的、主体的に取り組むための活動内容について、見直しを図る。	⑦		
	集団の一員として自覚をもち、主体的に健康や安全を意識した生活習慣を身に付けられるように指導するとともに、寄宿舎の衛生管理や環境整備に努める。	体験活動や日々の生活場面では、生徒同士が協力し交流できるような場面を設けることで、協力する心や思いやりの心を育てる。	⑩⑫		
		掲示物やチェック表を活用し、感染の防止や予防への基本的な対策を徹底する。	①②		
登校、就寝後の消毒等による衛生管理や、密集を避けるための日課調整を行う。	①				
事務部門	施設に起因する学校事故を防止する。	施設が安全な状態を常に意識できる点検内容を作成し、実施することで不具合等の危険箇所を早期発見、改善することで、学校事故を防止する。	①		
	学校景観の維持、安全性を確保する。	芝や植栽等の校地について管理計画を立て、気候等の変化に応じた対処を加え実施し、整った景観を維持することで、安全性を確保する。	①		
	設備の故障等による学校生活への支障を予防と建物・設備の老朽化に対する保全を図る。	建物の経年劣化等の現状把握と今後の予測を踏まえ、施設の中期的な整備計画を立てることで、躯体への影響を最小限に抑える。 設備の耐用、経過年数及び使用状況等から、劣化や故障の可能性を予測し、予防修繕を進めることで学校生活への支障の予防、設備の老朽化に対する保全を図る。	① ①		
1年	体温測定や体調チェックをとおり、通常の状態を知るとともに、健康的に過ごすための衛生管理を身に付ける。	毎日の体温・体調チェックを実施し、自己の健康な状態を把握できるようにする。また、身だしなみや歯磨き、手洗いを習慣化し、自己管理の基礎を学ぶ。	①②⑥		
	体験活動をとおり、社会的・職業的自立に向けた態度や規範意識を養う。	校内実習やデュアル型現場実習、短期集中型現場実習での働く体験の中から、社会的・職業的自立に必要な態度や規範意識の大切さを学ぶ。	④⑨⑩		
	家庭や寄宿舎との連携を深め、生徒の実態・課題の共通理解をもち、同じ視点で支援をする。	個別面談、学年便り、日誌の供覧や内容の充実を図り、家庭との連携を密にする。 寄宿舎のフォーカスシートを活用し、早期に課題の共有化を図ることで、具体的な支援方法を確認し合って早期解決を行う。	①③④⑩		
	実態に即した学習をとおり、基礎的学力の定着を図り、達成感や自己肯定感を育てる。	自立活動の視点を各教科に取り入れ、ルーピング、板書や発問の仕方、ワークシートの工夫等、授業内容の充実を図り、自ら考え選択したり、意見を伝えたりする活動を数多く設定した授業を実践する。	①②④⑤⑩		
2年	体調管理や感染症の予防に自主的に努める方法を学び、基本的な生活習慣を維持する中で実践できる。	バランスの良い食事、適度な睡眠・運動を心がけ、健康的な生活習慣を維持できるスキルを学ぶ。 手洗い・消毒を含めた衛生管理やパーソナルスペース等のマナーを身に付ける。	①②⑥		
	自己理解力を育て、社会生活・職業生活に必要な知識・技能・態度・規範意識を身に付けることができる。	現場実習やジョブスタディの学習をとおり、自立活動の視点から自己理解を促進する。キャリアパスポートを活用し、自己の振り返りができる機会を持つ。現場実習をとおり、職業適性や課題を確認し、個々に応じた進路指導に努める。	④⑤⑨⑩⑪		
	主体的に課題解決に取り組む態度を育て、社会人として必要な基礎・基本となる学習内容の定着を図る。	学習グループや課題に応じた学習内容・板書や発問、ワークシートの工夫等を実施する。自ら選択したり、意見を述べたりできる活動を取り入れ、主体的な学習を進め、「できた」「やってみよう」という体験を重ねる。	④⑤		
	集団生活における好ましい対人関係を養う。	トーキングタイムを実施し、生徒の心身の状態を把握・職員間で共有し、指導全般に生かす。他の集団（クラス・コース・学年・学校等）との交流や発表の機会をつくる。	①②⑦⑩⑫		
3年	社会自立に向けて生活スキルの向上を図るとともに、社会人として健康的な生活を送ることができる習慣を身に付ける。	気持ちの良いあいさつ、バランスの良い食事や適度な運動を心掛け、健康的な生活習慣を身に付ける。また、こまめに手洗いや消毒、マスクを正しく着用する習慣を身に付け感染症予防に努める。	①②⑥		
	卒業後の生活をイメージし、働き続けるために必要な知識及び技能・態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディの学習をとおり、自己理解を深めながら職業人としての意識を育て、働き続けるための知識や技能、態度を学ぶ機会を設ける。	④⑨⑩		
	自己肯定感や自己有用感を育て、新しいことに積極的に挑戦する態度を養う。	「やってみる」「できた」体験を多く取り入れ、様々な活動を体験させることで新たな挑戦への気持ちを育み、積極的に学習活動に取り組める環境を整える。	④⑤⑦⑫		
	トーキングタイムを定期的実施し、的確な支援を行う。	生徒とテーマを決めずに会話する時間を設け、心身の状態を的確に把握して、生徒の抱えた問題を早期に発見し、職員間で情報を共有し支援する。	①②⑩		